



新たな遺品発見 深澤家から寄贈

故深澤晟雄氏の自宅から本人の大学卒業証書など新たな遺品がみつかり、新年早々の1月2日、資料館に寄贈されました。

正月で帰省していた氏の孫・佳道さんがミキ夫人のタンスを整理して見つけたものです。着物と一緒に丸筒に入った本人の卒業証書や家族の賞状など計8点です。

本人の卒業証書では旧制の一関中学校、仙台市

の第二高校、東北帝国大学の証書が丸筒から出てきました。大学の卒業証書には「東北帝国大学法文学部ニ於テ成規ノ試験ヲ經テ法學士資格ヲ得タリ仍テ之ヲ證ス 昭和六年三月二十六日」とあります。

また、先妻のキエ夫人の医師免許証、父母の賞状なども丸筒に入っていました。自宅は昭和12年に火災に逢っており、この丸筒はどのようにして難を逃れたのか、半世紀を経て奇跡的な発見といえます。

奇しくも今年、昭和37年に全国初の乳児死亡率ゼロ達成から50年という節目の年。その新年に新たな遺品の発見は、計画中の50周年記念事業にはずみをつけ、資料館も新たな資料の公開で、より格調高い展示が期待されます。

これを知った1月19日付岩手日が、紙面の4分の1を使って大々的に報じてくれました。

こたつ

厳寒の被災地に27台

陸前高田市と亘理町へ

深澤晟雄の会の「被災地にこたつを」との呼びかけに、北上市を含む町内外から27台のこたつが寄せられました。皆さんの温かいご支援に感謝いたします。

こたつの要請があった

1月27日、本

会の佐々木副理事長と2人の会員代表が陸前高田市経由で亘理町を直接訪問して届けました。例年になく厳寒続きの日々だけに、こたつの贈り物は文字通り温かいご支援と深く感謝されました。



亘理町のNPO法人「亘理いちごっこ」の事務所で手伝うボランティアの女性(右から2人目)に14台のこたつを引き取ってもらい、その場で待っていた被災者の皆さんに手渡されました。

金一封 に感謝

湯本温泉
沢内字太田
北海道札幌市

対滝閣様
深澤武志様
大澤正三様

梶雄の心を永遠に ② 胸像に誓う



この胸像建立趣意書は、深澤梶雄氏業績顕彰会の会長・小田島常定氏によるものと思われます。同氏は小学校長を最後に生涯を教職に捧げました。深澤村長と同級生であり、家も近く幼友達だった

格差社会の根源 雪の征服に挑む

大正初期石油灯の下で勉強し、雪の平和街道を往復した氏は、生活格差の大きい原因が最近の教育における意志教育の欠陥と村民性ともいへべき劣等感にありとして、教育長に就任するや「沢内村の人間は決して他地域に比較して



ブルトーザー村長の異名に負けない雪との戦い

能力的に劣るどころかむしろ優秀な素質の所有者である。意志教育の徹底と沢内人としての誇りを持つことが生活格差是正唯一の途である」と常に強調されました。自分の生まれ故郷とはいえ多年都市生活をされた氏として当然考えるべきことでした。

沢内生活二年。丈余の豪雪と言う冷厳な事実の前に立たされた氏は、沢内村におけるあらゆる問題の根源が雪にあり、雪を征服することなく、沢内の問題を解決することができないとの結論に達しました。

昭和三十二年村長となるや、沢内村冬期交通確保の課題を掲げて、丈余の雪との対決を始めたのです。

不退転の決意と 六千村民の団結

半年間雪に閉ざされている沢内、一夜にして一メートル余りに及ぶ降雪を稀れとしない沢内に永年住みなれた私たち六千村民は、その理想着眼に敬意を表しながら、その実現に期待を寄せた者が果たして幾人あつたでしょうか。

氏の不退転の決意は、逼迫する財政にあえぎながら、ブルトーザー村長、陳情村長の異名にも屈すること



村民悲願の豪雪突破・盛岡へ定期バス開通式

なく、ある時には県に、ある時には国へと安らかなる日のなき苦闘を続けて六九年、昭和三十八年一月二十七日盛岡への突破に成功されたのです。氏がもらした「吹雪の夜は朝のことが気がかりで眠られぬ夜が続く」という言葉は、氏の極端な苦衷の表現だったと察せられます。もちろん自然の暴威と対決、冬期交通を確保したということは、一人氏の偉業のみに期すべきでなく、深澤村長を温かく激励し支援した六千村民の団結の賜物ですが、沢内村に新しい歴史を開く一大転機として将来の村民にも銘記していただきたいと思ひます。(つづく)